

# JATピックアップ

JA広報誌の記事を中心に毎月のトピックスを紹介します。

2011年7月

## 小麦乾燥貯蔵施設が完成 「きたほなみ」の受入体制万全に



平成22年12月に着工した小麦乾燥貯蔵施設が6月末に完成、7月12日に竣工式が行われました。増収が期待される新品種「きたほなみ」の受入れのため、現在の乾燥貯蔵施設西側に乾燥機（1時間当たり30トンの処理能力）2基、400トンサイロ3基を増設したもので、総工費は約4億円。

この施設完成により、小麦の受入能力は現況の1時間当たり60トンから同90トンに50%アップ、また乾燥能力は現況の1時間当たり86トンから116トンへ35%アップとなり、貯留能力も24%拡大することになります。

平成23年産小麦粗麦数量並びに製品数量（8月26日現在）

用途別	面積 ha	粗麦数量 俵	製品数量		規格外 俵
			俵	歩留 %	
一般きたほなみ (反収)	747.82	75,421 (10.09)	61,000 (8.16)	80.88	14,421
(前年)		(8.07)	(6.78)	(84.02)	
種子きたほなみ (反収)	59.15	6250 (10.57)	5,300 (8.96)	84.80	950



今年の小麦の収穫は7月下旬からスタートし、好天に恵まれ順調に刈り取り作業が終了しました。今年の「きたほなみ」の当初収量予想は反収11・4俵。刈り取り後の収量は、約748haの一般きたほなみの粗麦数量が約7万5千俵、10a当たり10俵（製品数量は6万1千俵、10a当たり8・1俵）8月26日現在となっており、前年のホクシンと比べ粗麦数量は反収2俵、製品数量では同1・3俵上回る見通しですが、当初目標には及びませんでした。

これは、7月の干ばつで子実が充実しなかったことが要因とみられます。